

## 1 「子ども☆ミライ会議」

### 2040年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～の実施について

本市では、平成13年（2001年）2月、「子どもの権利条約」の考えを取り入れ、「八王子市子どもすこやか宣言」を行い、それに基づいた「子どもの参加する権利」を具現化する会議を開催してきました。

子どもの権利を大切に、「子ども会議」、「子ども議会」、「子どもミーティング」、「子ども意見発表会」、「子ども☆ミライ会議」と、参加対象や形式を変えながら実施してきました。

平成29年度（2017年度）に市制100周年記念事業の基幹事業の一つとして「子ども☆ミライ会議」を開催し、子どもが『ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」』（以下、『ミライへの提言』という。）をまとめました。

この『ミライへの提言』や若者施策の充実の視点をもって、本市の「子ども・若者育成支援計画 ビジョン すくすく てくてく はちおうじ」が策定され、子ども・若者の意見が尊重されるまちづくりを進めています。



本市の「子ども☆ミライ会議」の特徴は、はちビバ（子ども・若者育成支援センター）において、子どもの意見を見える形にする取り組みを日常的に行っている、はちビバの職員が「子ども☆ミライ会議」のファシリテーター役を担っていることです。

また、「子ども☆ミライ会議」の参加経験者の学生リーダー・アドバイザーが若者としての意見を述べると共に、子どもを支援することで、年齢や個性を理解し、お互いを尊重しながら主体的な意見表明できる環境を整えています。



令和7年度（2025年度）の「子ども☆ミライ会議」は、「2040年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～」を全体テーマとし、『ミライへの提言』を具現化するために自分たちには何ができるかをグループごとに話し合い、意見としてまとめました。当日は、市長・教育長に意見発表を行いコメントを頂きました。

## 2 『ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」』と子どもの意見

### (1) 『ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」』

#### 「八王子はわたしたちがつくるまち」

- ① 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち
- ② 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち
- ③ 元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち
- ④ 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち
- ⑤ 商工業によって栄え、交通が便利なまち

平成 30 年 2 月 4 日 子ども☆ミライ会議 子ども大使一同



## (2) 提言における子どもの意見

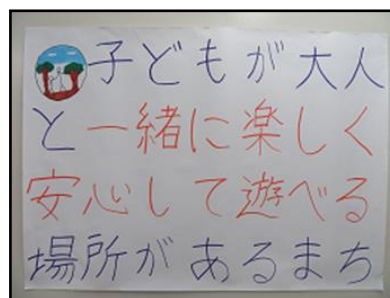
### ① 「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」

大人も子どもも安心して遊べる大きい公園、アスレチック公園があるといいと思います。

八王子市にはたくさんの自然があり、公園もたくさんあります。

その自然を最大に活かして、公園の中に図書館や大人と子どもと一緒に過ごすことのできるカフェやアスレチックなど、体を自然の中で動かすことのできる公園があるといいと思います。

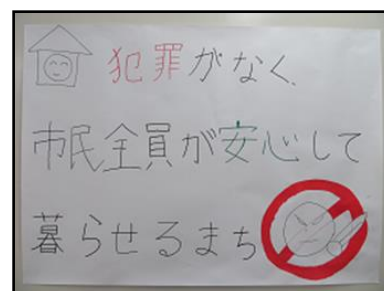
私たちは、子どもたちが楽しく安心して遊べるようにするため、大人に頼るだけでなく、時間がある時には公園で遊んでいる子どもの見守りに取り組みます。また、子どもは自分の近くの公園しか知らないので、八王子市の公園や自然のアピールを積極的にしてほしいと思います。



### ② 「犯罪がなく市民全員が安心して暮らせるまち」

不安な中では、子どもは地域に自由に出ていき、地域の大人と交流することができません。

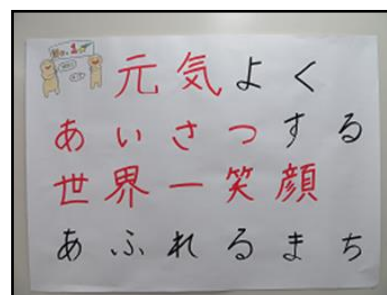
そのために私たちは、地域の危険なところを知り、それを地域の人に伝え、子どもたちへの呼びかけやパトロールに地域の大人と一緒に取り組みます。また、子どもから高齢者までが、段差をなくして、スロープにするなど住みやすい環境を作るとともに、顔を知り、互いに交流できる市民の憩いの場を作ってほしいと思います。



### ③ 「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」

八王子のまちは、人と人との交流が大切にされるまちになります。そのために私たちは、はずかしがらずに地域の人に、「おはようございます」などとあいさつをして、自分から積極的に人との交流を大切にすることに取り組めます。

また、人の交流と笑顔があふれるように、新しいことを始めるのではなく、八王子にある豊富な資源を有効活用して、映像や情報誌でPRし世界に発信します。



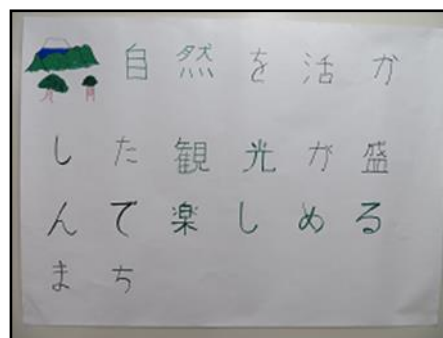
#### ④ 「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」

自然を活かし、観光で人を他地域から呼んでまちの活性化を図ります。

そのためには、子どもの目線で、八王子の良いところや歴史深い街並み、著名人、緑豊かな自然を全面的に伝えるために、プロジェクトを組んで活動に取り組みます。

そして、観光が盛んになるだけではなく、子どもから高齢者まで、安全に過ごせるバリアフリーが当たり前のまちになります。

また、自然を活かしたきれいなまちであり続けるために、クリーン活動、自主的なごみ拾い、ごみの分別をしっかりとするなどして環境を壊さない活動を行うことに取り組みます。



#### ⑤ 「商工業によって栄え、交通が便利なまち」

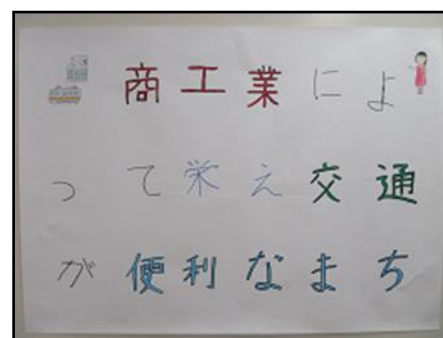
八王子のまちは、子どもと企業が深くかかわる機会があるまちになります。

そのために私たちは、公共交通機関を利用し、八王子市の商店街で買い物をすることに取り組みます。

また、公共交通機関の発達子どもや高齢者の移動に有効で、人と人の交流が図られることにもつながります。

私たちが、地元の産業や中小企業の技術力を子どもたちに宣伝し、さまざまな職種の人と話しをして将来の道を考えていきます。

生活と仕事が密着したことにより住みよいまち、住み続けたいまちになると思います。




### 3 令和7年度（2025年度）「子ども☆ミライ会議」のスケジュール

6月2日（月） ～6月13日（金）	子ども企画委員 募集 学生リーダー・アドバイザー 募集
申し込み完了 ～6月28日（土）	事前課題① 【子どもミライ提言「八王子はわたしたちがつくるまち」】の5つの提言から1つを選び、そのまちの実現に向けて、わたしたちができることについて考える。
6月18日（水）	学生リーダー・アドバイザー オリエンテーション 開催
6月29日（日）	第1回子ども企画委員ワークショップ 開催
6月29日（日）～ 7月26日（土）	事前課題② 自分が設定したテーマについて、次のことを考える。 【内容】具体的に、あなたにどのようなことができるか？ （やってみたいか？） 【方法】あなたがどうやったら、それを実行できるか？ 【効果】実行できたら、どのように変わるか？
7月27日（日）	第2回子ども企画委員ワークショップ 開催
8月31日（日）	「子ども☆ミライ会議」 開催


## 4 参加者募集（子ども企画委員）

小学5年生から高校生世代までを対象に、2040年の八王子のまちづくりについて、市長・教育長に意見発表をする子ども企画委員を募集しました。23名（小学5年生4名、小学6年生2名、中学1年生9名、中学2年生2名、中学3年生3名、高校1年生1名、高校2年生2名）の応募がありました。

【令和7年度(2025年度)】



# 子ども☆ミライ会議 参加者募集！



## 「八王子はわたしたちがつくるまち」

本市では、「八王子子どもすこやか宣言」の推進事業の一環として、子どもの声や意見を受け止め、市政に反映するために「子ども☆ミライ会議」を開催してきました。

本年度は、子どもたちが作成した「子どもミライ提言～八王子はわたしたちがつくるまち～」の具現化を目指し、2040年の八王子のまちづくりについて市長・教育長に意見発表する参加者(子ども企画委員)を募集します。

【プログラム】

- ① **令和7年(2025年)6月29日(日) 第1回 子ども企画委員ワークショップ**  
会場: はちピバ北野 内容: 子ども☆ミライ会議のオリエンテーション、意見交換
- ② **令和7年(2025年)7月27日(日) 第2回 子ども企画委員ワークショップ**  
会場: はちピバ北野 内容: グループ討議、発表原稿、プレゼンテーション資料の作成 【ワークショップの様子】
- ③ **令和7年(2025年)8月31日(日) 「子ども☆ミライ会議」 (市長、教育長に意見発表する本番)**  
会場: 学園都市センター ホール、第1セミナー室

【対 象】 小学5年生から高校生世代まで

【定 員】 20名(定員を超えた場合は抽選)

【申込期間】 令和7年(2025年)6月2日(月)から6月13日(金)まで

【申込方法】 「子ども☆ミライ会議申込書」と「事前課題」を提出してください。

参加可否について、6月18日(水)までに連絡します。

【参 加 費】 無料(会場までの交通費は自己負担となります。)

【そ の 他】 ●できるだけすべてのプログラムに参加してください。

- プログラム1回の参加につき500円分の図書券を用意します。本番終了後にお渡しします。
- 八王子市やメディアが写真や動画の撮影を行うことを承諾ください。また、八王子市ではPRや報告等のため、メディアにおいては放映等のために、これらの写真や動画等を事前連絡せずを使用することについて承諾の上、お申込みください。


【子どもミライ提言】

「八王子はわたしたちがつくるまち」

- ① 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち
- ② 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち
- ③ 元氣よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち
- ④ 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち
- ⑤ 商工業によって栄え、交通が便利なまち

平成30年2月4日 子ども☆ミライ会議 子ども大使一同

「子ども☆ミライ会議」についての詳しい情報は、こちら(市のHP)をご覧ください。



【問合せ先】  
八王子市子ども家庭部青少年若者課 はちピバ川口(子ども・若者育成支援センター)  
〒193-0801 八王子市川口町3974  
TEL: 654-4757 / 070-1276-9229 FAX: 654-4757  
Email: Kodomo-miraikaigi@city.hachioji.tokyo.jp(青少年若者課 子どもミライ会議用)

【子ども企画委員 募集案内】

6

## 5 第1回子ども企画委員ワークショップの様子

令和7年（2025年）6月29日（日）、小学5年生から高校2年生までの22名が参加し、はちビバ北野（子ども・若者育成支援センター）にて、「子ども☆ミライ会議」第1回子ども企画委員ワークショップが行われました。この日は、8月31日（日）に学園都市センターで開催される、発表本番に向けて意見交換をしました。



はじめに、子ども家庭部青少年若者課長が委員一人ひとりに「子ども企画委員カード」を授与しました。続いて、学生リーダーのアイスブレイク「八王子クイズ」のあと、「子ども☆ミライ会議」の概要・スケジュール説明について、パワーポイントの資料を見て学びました。



さらに、子どものしあわせ課の職員から「子ども・若者育成支援計画 ビジョン すくすく てくてく はちおうじ」について、「子ども版リーフレット」を活用して、レクチャーを受けました。

その後は、5つのグループに分かれて事前学習をもとに自分たちの意見を話し合うグループワークを行いました。学生リーダーが進行役となり、自分たちの意見を出し合いました。同じ意見が出たり、異なる視点の意見があったりと意見交換を通して様々な発見がありました。意見は1つずつ付せん書き出し、それを模造紙にまとめて整理していきました。



最後には、「子ども☆ミライ会議」本番に向けて提言したいと思うテーマをグループ内で話し合い、各グループの仮テーマを作成しました。限られた時間で意見をまとめるのは大変な様子でしたが、子ども企画委員がみんなで協力し合い、無事に1回目のワークショップを終えることができました。

## 6 第2回子ども企画委員ワークショップの様子

令和7年(2025年)7月27日(日)、小学5年生から高校2年生までの21名が参加し、はちびバ北野(子ども・若者育成支援センター)にて「子ども☆ミライ会議」第2回子ども企画委員ワークショップが行われました。

本番前最後のワークショップのため、参加した子ども企画委員は、真剣な眼差しで発表したい内容について、意見交換をしていました。



はじめに、学生リーダー・アドバイザーによるアイスブレイク「協力クイズ」を楽しみ、職員から本番の流れや注意事項を聞きました。その後、どのように原稿を作るのかを学んでから、5つのグループに分かれて作業を開始しました。

グループワークでは、付せんと模造紙を使い整理していきました。第1回子ども企画委員ワークショップよりも緊張感がとれた様子で、学生リーダー・アドバイザーがサポートしながら、どのグループも活発な意見交換が行われていました。意見が確定したら、意見ごとに「原稿作成担当」、「発表担当」、「資料担当」などの役割を決めました。

最後に、本番に発表する原稿作成に取りかかりました。発表時間内の原稿にするため、出来上がり次第、職員がパソコンに打ち込み、文字数を確認したり、文章を入れ替えたりして、みんなで協力しながら作り上げていました。

原稿が完成したグループでは、担当する発表箇所の割り振りを決め、本番を想定して実際に言葉に出して読んでいました。時間内に原稿が出来上がらなかったグループもありましたが、本番までの完成を目指して、自宅等で取り組み、無事に仕上げることができました。



## 7 学生リーダー・アドバイザーオリエンテーション、企画会議の様子

「子ども☆ミライ会議」では、子ども企画委員の意見表明・意見聴取が促進されるように、子どものロールモデルでもある学生が参画しています。

はちびバ（子ども・若者育成支援センター）のボランティアとして活動する学生だけでなく、学園都市センターやボランティアセンターでの広報、広報はちおうじでの募集により、本市在学、在住（創価女子短期大学、多摩美術大学、帝京大学、東京都立大学、白梅学園大学）の学生5人が参画しました。

子どもの意見は、声や文字にならない、可視化されない気持ちや様子も意見ととらえます。学生リーダー・アドバイザーは、グループワークにおいて、子どもの意見聴取の促進と意見形成の支援を担当します。その子ども権利を理解し、子どもの意見を尊重し、グループワークのファシリテーターとなります。

また、若者の意見を表明する機会としても学生リーダー・アドバイザーオリエンテーション、企画会議を実施しています。

### (1)オリエンテーションの様子

令和7年（2025年）6月18日（水）に、「子ども☆ミライ会議」学生リーダー・アドバイザーオリエンテーションを行いました。

「子ども☆ミライ会議」は子どもの権利を尊重し、子ども・若者の意見を表明する機会として開催しています。学生リーダー・アドバイザーは、市内の在学、在住の学生が小学5年生から高校生世代の子どもの意見表明が促進されるように支援をします。そのために、「子どもの権利」「子どもの意見表明のファシリテート」「子どもとのかかわり方で大切にすること」についてレクチャーを受け、また「若者が考える子どもの権利を保障したまちづくり」について『若者トーク』ディスカッションを行いました。

#### 若者トーク：「子どもの権利について」

Q、あなたは、子どもの権利の重要性について、どのように考えますか？

子どもの内に秘めている思いを聴いてあげることは子どもの権利を最大に尊重することだと思う。(Aさん)

いじめにあっている子どもは、なかなか拾い上げられないので、守られる権利として大人が支援すべき。(Bさん)

子どもが提言したことが実現されるとまちが変わり、子どもはまちが好きになると思う。子どもの意見を大切にすべきだと思う。(Cさん)

まだまだ、大人が子どもの権利を知らない。まずは、大人が理解をする機会が必要。(Dさん)

## 八王子のまちづくりについて

Q、若者が愛着を持ち、住み続けたいと思うまちとは？

地域のつながりと安心安全が必要なので、あいさつができるまちは住みやすい。(A、Dさん)

映画館や商業施設やレジャー施設があり、まちのなかで子ども・若者が楽しめることができるといい。(B、Cさん)

学校も居場所であることを認識しつつ、学校以外のサードプレイスと言われる子ども・若者が気軽に通える居場所がまちにあることが大切。(Bさん)

### (2) 企画会議の様子

令和7年(2025年)6月29日(日)、7月27日(日)の子ども企画委員ワークショップの終了後に、意見表明の子どもの様子、グループワークで表明された意見、グループの意見の合意形成状況、次回への課題を提示し、検討を行いました。その際のポイントは、オリエンテーションでも重きを置いた、「子ども理解の配慮(子どもとのかかわり方)」「グループワークのルール」を中心に振り返りました。



#### 子ども中心であること

- 子どもに対する説明などは、その子どもの発達や理解力に応じて適切に行う。

#### 子どもの表現力は完全ではない

- 子どもの思っていることや本音は、言葉にのみ現れるとは限らないので、非言語的コミュニケーション(言葉ではない表現)による発信も「子どもの意見表明」ととらえる。

#### 子どもに好意や尊敬を持つ

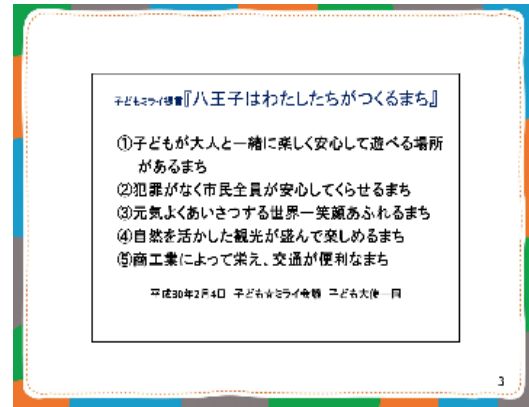
- 子どもの好ましい行動を捉えて、「～できているところ、好きだな」と伝えたり、子どもの所持物や好きな物について自分もそれが好きだななど、「この人は物事のいいところを見ようとしている人なんだ」と関心や信頼を得たりする。

## 8 「子ども☆ミライ会議」2040年の八王子 ～八王子はわたしたちがつくるまち～の様子

### 「子ども☆ミライ会議」開催

8月31日(日)、学園都市センターで「子ども☆ミライ会議」を開催しました。小学5年生から高校2年生までの子ども企画委員23名(当日は22名)が参加しました。「八王子はわたしたちがつくるまち」について、大学生5名が学生リーダー・アドバイザーとして各グループのサポートをしながら、これまで2回のワークショップで話し合った意見を、市長・教育長に向けて発表しました。

学園都市センターでの本番。舞台に整列し、たくさんの観客を前に緊張した面持ちながらも、それぞれのグループの意見をしっかりと発表しました。自分で調べた資料やスライドなども使い、わかりやすい発表となるよう工夫しました。途中には、参加者の緊張をほぐすため、司会者からの質問に、フリップを使って答えてもらいました。



### ▼グループごとの発表テーマ▼

#### ●グループ1A

- 「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」
  - ・「安心して話せる場所」
  - ・「大人の目がある地域の居場所」
  - ・「出張はちビバの利用活性化」

#### ●グループ1B

- 「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」
  - ・「砂嵐によるけがを減少させるために植物を植える」
  - ・「安全を考えながら楽しさを保つ公園」
  - ・「子どもも大人も休めて楽しめる公園」

●グループ2・5

○「犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち」（「商工業によって栄えた交通が便利なまち」）

- ・「安心安全な環境づくり」
- ・「地域のつながりで安心して暮らせるために」
- ・「町の活性化と防犯への取り組み」

●グループ3

○「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」

- ・「気持ちよくあいさつするためには」
- ・「あいさつボランティア団体をつくる」
- ・「若者の意見を市政に取り入れる」

●グループ4

○「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」

- ・「農家の手取りを増やす」
- ・「イベントを通じて、高尾山などの自然を学ぶ」
- ・「SNSで八王子の自然の魅力を発信する」

ワークショップから子ども企画委員と共に活動し、意見形成に携わってきた学生リーダー・アドバイザーも、担当したグループの子ども企画委員に寄り添い、サポートをしていました。

どのグループもこれからの「はちおうじ」について、様々な角度から自分たちで調べ、考えた意見を述べました。市長・教育長はもちろん会場の観客にもその熱意が伝わる発表となりました。市長・教育長から激励と称賛の言葉をもらい、子ども企画委員の表情からは自信と喜びが感じられました。

また、終了後に市長・教育長と一緒に写真撮影をした後、市長から一人一人にねぎらいの言葉をいただきました。子ども企画委員はとても喜んでいました。



## 9 子どもの意見のフィードバックについて

子どもの意見については、分かりやすいフィードバックが大切です。意見がどのように検討され、反映されたか、また、反映されなかった場合にはその理由等を分かりやすく伝えることが必要です。

「子ども☆ミライ会議」では、庁内関係部署の協力や民間団体の方の協力を得ながら、意見の反映や実現に取り組んでいます。庁内関係部署が子どもの意見を把握できるように庁内で周知するとともに、市民に対しては報告書で周知しています。また、「子ども☆ミライ会議」に参加した子ども企画委員には、意見に対して反映した内容や反映への経過をお知らせしています。

会議のなかで、市長・教育長が子ども企画委員にコメントすると共に、各所管の取り組みを説明しました。各所管は、青少年若者課経由で子ども企画委員と直接やり取りし、意見を真摯に受け止めました。

### (1) 大人の目がある地域の居場所（大人の目がある安全な居場所が増えて欲しい）、出張はちビバの活性化（土曜日と放課後の子どもの安全な遊び場・居場所の確保）について

令和7年度(2025年度)当初から青少年若者課で検討を行っていた事業であり、子ども企画委員の意見を受けて、ニーズを再認識し、令和8年度(2026年度)実施につなげます。

### (2) 安心して話せる場所(公園のトイレの改善について)

「八王子市中心市街地公共トイレ環境づくり基本方針」の取組み「船森公園トイレ設計コンペ」(まちなみ整備部公園課主催)の経過報告と模型やパネルの展示の情報提供を行いました。八王子市の地域性や景観との調和を図りながら、中心市街地の魅力をさらに高め、利用者にとって安心・快適で、「使いたいと思えるトイレ環境」の実現に向けた多彩なアイデアがあり、子ども企画委員が提案した意見と方向性を同じくするものでした。

### (3) 安全を考えながら楽しさを保つ公園、子どもも大人も休めて楽しめる公園について

令和8年(2026年)秋、八王子駅南口にあった医療刑務所の跡地に、新たに公園、ライブラリ、ミュージアム、交流スペースが一体となった「桑都の杜」が誕生します。跡地の活用について、令和元年度(2019年度)に「グループインタビュー」で子ども企画委員が、提案した内容も、反映されています。

## 10 子ども企画委員の意見

8月31日（日）に開催された「子ども☆ミライ会議」において、子ども企画委員が、次の通り意見を発表しました。

### (1) 子ども企画委員の意見概要

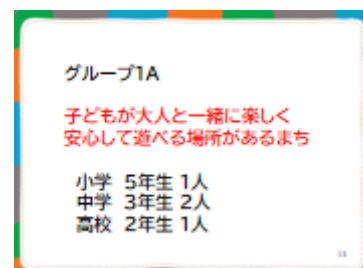
グループ	意見 No.	テーマと意見の概要	
1A	ミライ提言1 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち		
	1	安心して話せる場所	公園のトイレの改善について
	2	大人の目がある地域の居場所	大人の目がある安全な居場所が増えて欲しい。
	3	出張はちビバの活性化	・土曜日と放課後の子どもの安全な遊び場・居場所の確保 ・保護者に子どもの健全育成にとっての遊びの大切さを伝える。
	4	放課後子ども教室の理想像	・登下校確認のカードリーダーの拡大 ・中高生による、近隣の放課後子ども教室への定期的な学習支援ボランティアの市域全体への拡大
1B	ミライ提言1 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち		
	5	砂嵐によるけがを減少させるために植物を植える	・砂嵐防止の植物を植え、ボランティアで管理 ・地域に希望の植物のアンケートを実施することで、より安全安心につながる。
	6	安全を考えながら楽しさを保つ公園	・多世代が楽しめる遊具の設置や、十分な草木の手入れによる集客力の向上 ・子育て世代の移住による人口増加・税収増加
7	子どもも大人も休めて楽しめる公園	公園の中に、本が読めたり飲食ができたり、休めたりできる施設があるとよい。	
2・5	ミライ提言2 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち (ミライ提言5 商工業によって栄え交通が便利なまち)		
	8	安心安全な環境づくり	部活帰りの道が暗い。ソーラー街灯や蓄光素材の設置（例：大阪府枚方市）
	9	地域のつながりで安心して暮らせるために	・防犯対策には「あいさつ」と「ボランティア」が大切 ・まずは一度ボランティアに参加し、その場にいる人にあいさつをする。 地域ごとにパトロールボランティア
	10	まちの活性化と防犯への取り組み	ユーロードでのイベントで自ら防犯パトロールボランティアに参加

グループ	意見 No.	テーマと意見の概要	
		ミライ提言3 元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち	
3	11	気持ちよくあいさつするためには	気持ちの良いあいさつについて
	12	あいさつボランティア団体をつくる	子どもたち主体のあいさつボランティア団体づくり
	13	若者の意見を市政に取り入れる	・笑顔あふれるまちにするためには、若者の意見を市政に取り入れることが重要 ・若者の投票率向上のため、若者向けワークショップ
		ミライ提言4 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち	
4	14	農家の手取りを増やす	八王子の食材を使う、田畑や自然を活かした観光施設やイベントを行う。
	15	イベントを通じて、高尾山などの自然を学ぶ	中高生がイベントの企画・運営に参加する。
	16	SNSで八王子の自然の魅力を発信する	SNSで市内の映えスポット等を投稿することで、他県や外国の人が本市を訪れるきっかけを作る。

## (2) 子ども企画委員の発表内容（\*発表原稿を元にしています）

### グループ1A

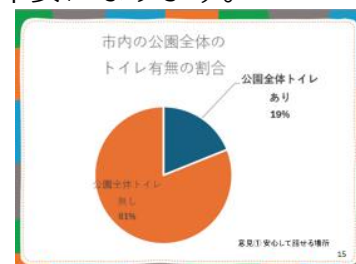
私たちは、子どもミライ提言の「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」を具現化するため、意見をまとめました。



1つ目の意見「安心して話せる場所」について発表します。

僕は、安心して話したり、遊んだりできる場所がほしいです。毎週のように学校から、不審者情報がお母さんのスマホに送られてくるので、僕は公園で遊ぶのが不安です。一番心配なのはトイレです。遊んでいる時にトイレに行きたくなったら、不審者にトイレに連れ込まれたらどうしようと不安になります。

家の近くの公園で遊べば、家に帰ってトイレに行けるけど、遠くの公園や、人が少ない公園は心配です。どの公園のトイレでも、もっと安心して使えるトイレにしたいなと思います。ちなみに、令和3年のデータでは、八王子市の公園 867 か所中、トイレがあるのは



164 か所で、19%しかありません。

僕がいいなと思ったトイレは、上柚木公園のトイレです。見わたしが良くてキレイだからです。このようなトイレがたくさんあれば、僕のように不審者が心配で外で遊べない子どもは減るし、不審者情報も少なくなると思います。

初宿市長、僕たちが安心してたくさん遊ぶことができる公園のトイレを八王子市に作ってください！



2つ目の意見「大人の目がある地域の居場所」について発表します。

私がこのテーマを選んだのは、妹が学童保育を卒業してから、放課後をどこで過ごすか困っている様子を見て、「小学生や中学生が安心して集まれる場所」が少ないと感じたからです。先程のメンバーの意見のとおり、公園では安心できないのではと考えました。

私が提案したいのは、もっと多くの地域に、誰もが気軽に通えるはちビバのような公共の場を設けることです。

例えば午前中は、赤ちゃんとその保護者が集まる「赤ちゃん広場」として、育児中の親同士が交流や情報交換をできるような場所にします。赤ちゃんを持つ親たちが気軽に集まり、子ども同士が遊んでいる姿を見守りながら、親同士が支え合える場所があれば、子育ての孤立感も減ると思いました。さらに、地域のシルバー世代の方々にもボランティアとして参加していただくことで、幅広い世代の交流が生まれ、子ども達にとっても「地域のおじいちゃん・おばあちゃん」のような存在が増えると考えます。



そして、午後は、小学生や中学生が利用できるようにし、放課後の遊び場や学習スペースを提供します。スタッフや地域のボランティアが常に見守り、安心できる環境を整えることで、親も安心して子どもを預けると考えました。

私は、こうした場所を地域の人たちと協力しながらつくるためのアイデアや活動を考えたいと思います。例えば、イベントや子供向けのワークショップを企画したり、助産師さんや医療関係の方々に協力してもらい、保護者向けの相談会を開催したり、利用者の声を集めてよりよい運営方法を考えたいです。また、例えば、アンケートを行い、どのような場所やサービスが求められているかを調べることで、より多くの人にとって使いやすい場所をつくれたいと思います。

3つ目の意見「出張はちビバの利用活性化」について提案します。

「はちビバ」、すなわち八王子市子ども・若者育成支援センターは、子どもの居場所であり、遊びや体験活動を提供する施設です。また、若者の支援も行っています。「出張はちビバ」について、はちビバに変わる前の八王子市立児童館の事業報告書には、「児童館がない地域の子どもたちへ、児童館の遊びを提供する」ものだと明記されています。

全校朝会のような児童・生徒が集まる時間や、保護者会などで、はちビバ職員が「出張はちビバ」と「はちビバ」全体の取り組み内容について説明するとよいと思います。特に、遊びが子どもの健全育成に不可欠であること、健全な遊びとそうではない遊びがあることを説明する必要があります。

子ども一人ひとりの個性に応じ、遊びを通して健やかに育てることが、子どもを健全に育成するということです。

説明会の当日、あるいは数日後に「出張はちビバ」を実施すれば、子どもは、はちビバや健全な遊びについての知識や興味を持った上で「出張はちビバ」に参加できます。これによって「出張はちビバ」の利用者が増えることが期待できます。同時に、はちビバについても関心が高まり、はちビバの利用者が増えることも期待できます。子どもにとっては、放課後や土曜日の安全な遊び場や居場所ができます。また、保護者に対しては、子どもの健全育成には遊び、特に健全な遊びが大切であることが伝わる効果が期待できるので、この意見を提案します。

4つ目の意見「放課後子ども教室の理想像」について提案します。

「放課後子ども教室」とは、市内のほとんどの小学校で行われている、地域の人々と関わりあいながら、学び、遊べる取り組みです。私は大きく2つの面で、更に良くできることがあると考えます。

まずハード面です。放課後子ども教室には、学童保育とは異なり、保育が行われないというデメリットがあります。保護者は、一人で行動する子どもの安全をととても気にする一方、小学校において、携帯電話の持ち込みは簡単なことではないでしょう。そこで、登下校時や放課後子ども教室の利用時にカードリーダーにカードをタッチし、保護者に通知するシステムを全小学校に拡大していただきたいです。それにより、子どもや親にとっての障壁が1つ除かれ、利用推進につながっていくと考えます。

次にソフト面です。放課後子ども教室には学習支援の取り組みがあります。現



在、多くの小学校では、シルバーさんがその役割を担ってくれています。私は、それだけでなく、中高生との交流の機会としてもいいのではないかと考えます。

私の母校の高倉小学校では、定期的に隣にある八王子東高校の生徒が学習の手助けをしてくれる取り組みが行われています。私は、これを市内全域に拡大したいです。

具体的には、市内在学の中高生を対象としたボランティアをつくり、自分の通う学校の近隣の小学校に定期的に学習支援を行うこと

を提案します。私は子どもと関わりあうことが好きなので、実現したら積極的に参加しますし、例えば最初のうちは報酬として図書カードなどを贈呈して規模拡大を図っても良いと思います。最初は外発的な動機でも、やっているうちに気づ

きがあるものです。支援の質を考えるなら、小学生に利用後アンケートをとり、リーダーのような人をたて、その人を中心に研修を行うのも、中高生の社会勉強になり面白いと思います。

これらの活動が実現すれば、子ども達が安全で楽しく過ごせるだけでなく、地域全体が子育てや教育に優しい雰囲気になると思います。親同士、子ども同士のつながりが増え、地域の絆が深まることで、子ども達もより安心して成長できる環境が整うと思います。

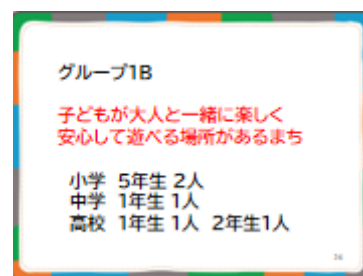
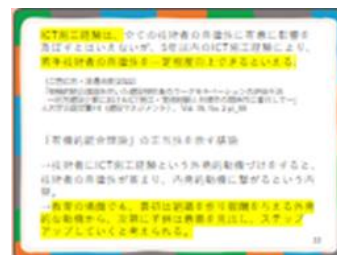
## グループ1B

私たちは、子どもミライ提言の「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」を具現化するため、意見をまとめました。

1つ目の意見「砂嵐によるけがを減少させるために植物を植える」について発表します。

私たちの身近な公園では、強い風が吹くと砂嵐がおき、とても遊べる感じではなくなってしまうので、砂嵐を防ぎたいと考えています。

砂嵐がおきる原因は大きく3つです。1つ目は、雨がふらず地面が乾燥し、土や砂が舞い上がりやすくなることです。2つ目は、風が強くなり、土や砂が舞い上げられることです。3つ目は、土質、植生の有無、地形の影響です。りゅう子の細かい土や砂は舞い上がりやすく、植物が少ない場所では更に舞い上がりやすくなります。周りよりも低くへこんだところや、風が吹きだまりやすい谷のような場所、でこぼこした地形も砂嵐を発生しやすくします。



対策としては、植物を植えることで地面をおおい、砂嵐の発生をおさえます。ながめも良くなり、環境に優しく、二酸化炭素のきゅうしゅうや、ヒートアイランド現象をやわらげる効果もあります。ただ、効果が出るまでかなりの時間がかかり、植物の管理も必要になります。庭や公園など緑化したい場所にあたります。

そこで、もう一つの対策があります。それはクローバーを植えることです。クローバーは砂嵐を起りにくくし、育ちも早いです。

なので、今、自分たちにできることは、植物の購入を市長に相談し、許可をもらえたら業者に依頼すること、植物を育てる水やりボランティアをつくること、地域の人に砂嵐防止の植物の種類アンケートをとることです。

これによる効果で、砂嵐によるケガを減少させることができ、公園が緑でいっぱいになります。さらに、公園が整びされ、今より遊びやすくなり、利用者が増えると思います。また、地域の人々の意見を聴いて行っているのも、とても安心安全につながると思います。

2つ目の意見「安全を考えながら楽しさを保つ公園」について発表します。

公園によっては、遊具が少なく、小さい子どもから小学生くらいの子供たちが、思いっきり体を動かすことができなくなってきています。【スライド①】小さい子どもと親と一緒に楽しめる大きな遊具をつくることで、子どもが思いっきり体を動かして遊ぶことができるようになり、【②】このテーマでもある「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所」にすることもできると思います。

【③】そのためにも、私たちには、清掃ボランティア活動などに参加して、公園をきれいにしたり、ボランティア活動でなくても、【④】遊びに行ったついでに落ちているゴミなどを拾ったりすることができると思います。

【⑤】こちらは、とても良い公園の例です。

① 良い公園の例（富士見台公園）



② 良い公園の例（富士見台公園）



③ 公園の整備不足の例



④ 公園の整備不足の例



⑤ 良い公園の例（富士森公園）



【⑥】まず、大きくて、体の様々なところを思いっきり動かせる遊具があり、【⑦】適度な木陰に【⑧】多くのベンチがあることで、親が安心して子どもを見守ることができ、子どもも気軽に休みをとることができます。ただ安全だけでなく、夏の熱中症予防にもなると思います。

⑥ 良い公園の例（遊具）



⑦ 良い公園の例（木陰のベンチ）



⑧ 良い公園の例（ベンチと木陰）



今後、このような公園を増やしていくことで、気軽に遊びに来る人が増え、他の地域から子育て中の家族が移り住み、人口減少の問題も解決し、税収も増えると思います。

3つ目の意見として、僕は「子どもも大人も休めて楽しめる公園」があればいいと思っています。

具体的には、公園の中に室内で本を読めたり、飲食が出来て休めたりする公園です。

【スライド】これは、室内で本を読んだり、飲食が出来て休める公園として僕のイメージになった、都内にある和田倉噴水公園の休憩所です。この休憩所では、飲食が出来て外の景色を見ながら休める公園になっています。



何故室内で休める公園がいいかというと、公園に親子で遊びに来た時、子どもだけ公園で遊んでいて、大人はイスに座って見守っているの、見守る以外にも親子で本を読むなど、それぞれが楽しめる公園がいいなと思ったからです。

僕に出来そうな事は、本を集める事だと思います。本を集めるために友達や部活の人に声をかけたり、学校の先生と相談をして、より多くの人達から本をもらったりする事が出来ると思います。学校以外にも、はちビバに来ている人にも声をかけて本を集めたいです。本を集めて公園に置いたら、子どもはずっと遊んでいるだけでなく、親子で座って一緒に本を読んでゆっくりする事ができるようになると思います。

## グループ2・5

私たちは、子どもミライ提言の「犯罪がなく市民全員が安心してらせるまち」と「商工業によって栄え交通が便利なまち」について意見をまとめました。

1つ目の意見「安心安全な環境づくり」について発表します。

私は、中学生になってから部活などで帰るのがおそくなり、道が暗く、いつ人や車がとびでてくるか、わからなくて毎日とても不安です。

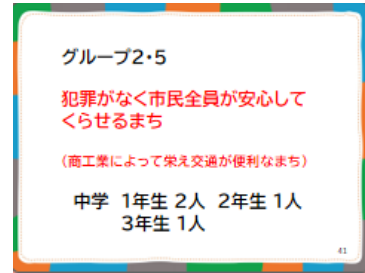
そこで、昼に太陽の光を集め、その光をつかったソーラー街灯の設置を提案します。ソーラー街灯を人通りの少ない道や暗い道に配置することにより、見えやすくなり安心して暮らしていけると思います。

この資料を見てください。これは大阪府枚方(ひらかた)市でおこなわれた実験です。蓄光素材を路肩に設置して、道を明るくしています。このようなものを私の暗い通学路などに設置することにより明るい道が見えやすく危険が少なくなります。太陽の光が集めにくかったり、街灯を置きにくかったりする場所は、家など建物があるならば、玄関のライトなどを付けてもらい、少しでも道を明るくできるようにします。また、地域の新聞や、学校の手紙に「ソーラー街灯を設置します。」というような内容を書いて広めていけばよいと思います。このようなことにより、事故につながりにくくなり、安心安全な環境づくりができると思います。

2つ目の意見「地域のつながりで安心して暮らせるために」について発表します。

私は犯罪対策にはあいさつとボランティアが大切だと思います。あいさつはお金がかからず、1人でもでき、特別な準備がなくてもできます。ボランティアは地域とのつながりを深める一番の近道だと思います。犯罪対策で、防犯カメラの設置をする場合、お金など様々な課題がありますが、あいさつやボランティアならお金があまりかからず、犯罪対策に有効だと思います。

ですが、最近、あいさつをする人や、ボランティアに参加する人が減っていると思います。また、地域の人との関わりがうすいと言われています。そうすると、



あいさつをする場がかぎられ、犯罪対策にならないかもしれません。ボランティアでもいそがしかったり、1人では参加しづらかったりしていると思います。

ですが、1回だけでも参加すると、地域にどんな人がいるのかを知ることができます。何回もボランティアに参加すれば、顔見知りや少し話せる程度の関係になると思います。また、ボランティアに参加している人にあいさつをすることができれば、地域の人とのつながりが深まります。今は、あいさつができるような地域の人がない状態だと思っています。なので、あいさつを活発にするために、私たちができることは、ボランティアに参加することと、その場にいた人にあいさつをすることです。そうすることにより、地域のつながりが深まり、犯罪が少なくなると思います。

2つ目の意見「地域のつながりで安心して暮らせるために」について、引き続き発表します。

僕の意見は「地域ごとにパトロールボランティアをする」です。近年、あらゆる場所で防犯カメラの設置が強化されています。僕の住んでいる地域でも毎年増えています。しかし、それだけでは犯罪はなくなりません。機械の目より人の目の方が犯罪に対する抑止力になるのです。

そこで、パトロールボランティアが良いと思いました。パトロールボランティアにはたくさんのメリットがあります。まずは、先ほども述べたように防犯カメラよりも犯罪の抑止になることです。そして、警察官のパトロールだけでは見回りきれない場所も行けます。さらに地域のつながりができます。

実際に八王子市には、学校安全ボランティアというものがあります。これは小中学生の登校時間の通学路に大人がいて、子どもが安全に歩けるようにするものです。彼らがいる時間は犯罪が起きることはほとんどありません。

八王子市のHPにも「地域の力」に期待するということが書かれています。地域で取り組むことで、犯罪を抑えようとする動きが強くなると思います。



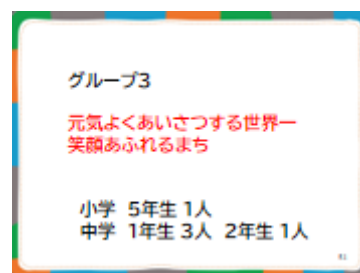
3つ目の意見「町の活性化と防犯への取り組み」について発表します。グループ2がテーマとしたミライ提言「安心して暮らせるまち」の視点に、グループ5がテーマとしたミライ提言「商工業によって栄え」の視点を取り入れました。

なぜ、これを考えたかと言うと、八王子市の栄えていない場所をなくしたいからです。また、八王子市には人と人との交流が途絶えていると感じる場所がいくつかあり、先ほど吉良君が人との交流が一番の防犯に繋がると言っていたのですが、この状態ではそれが実現できないと思ったからです。

そのために僕達ができることは、放射線通りのお祭りなどのイベントで、自ら防犯パトロールボランティアに参加し、各所に散らばるという方法です。こうすることで様々な場所でのトラブルを迅速、かつ未然に防げると考えました。その結果市民が安全な一時を過ごせると思います。

### グループ3

私たちは、子どもミライ提言の「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」を具現化するため、意見をまとめました。



1つ目の意見「気持ちよくあいさつするためには」について発表します。

私たちは、さりげないあいさつが気持ち良いものだと思います。私は犬を飼っていて、犬の散歩をしているときによく人と会って、あいさつをしますが、あいさつを返してくれる人とそうでない人がいて、返してくれる人はどちらも気持ちがいいと思います。返してくれない人は、気持ちよくないというか、気まずいので、あいさつはやっぱり大事だと思います。

また、知っている人に会ったら素早くあいさつをすることが良いと思います。理由は、以前、近所の人にあいさつをされた時にあいさつできなかったことがあったからです。

人にあいさつをされた時には、あいさつを返せばお互いに笑顔になれる！ 元気よくあいさつすれば近所の人も返してくれる！ 元気よくとは活発で勢いがあるという感じがします。元気よくあいさつをすると周囲の人の気分を高め、良い人間関係を作るきっかけになります。また、自分自身の気持ちも明るくなり、生活のモチベーションアップにもつながります。

気持ちよくあいさつするために必要だと思うことは、不審者だと思われにくくすることです。

具体的にやってみることは、「笑顔であいさつすることは不審者と思われにくくなる効果があるか？」ということについて、検証動画を撮り実行する方法です。どこかのスタジオなどを借りて、様々な服装の方の、笑顔とそうでない様子を撮ります。例えば、その動画を YouTube にアップし、概要欄にアンケートの URL を貼り、たくさんの市民の方々にアンケートをとります。

得られる効果は、あいさつをする人もされる人も安心してあいさつすることができるということです。このような行動をしている人が怪しいとわかっているら、お互いに気持ちの良いあいさつになり、あいさつが増えます。

さらに検証結果を市のホームページや学校などで公開し、このような特徴の人には注意をしながらあいさつをする、というのを呼びかけていきます。そうすることでたくさんの人にあいさつが広がっていくと思います。

2つ目の意見「あいさつボランティア団体をつくる」について発表します。この意見にしたのは、「あいさつをしたくても一人だと恥ずかしくてあいさつできない」という人がいるので、そういう人のために、子ども主体のあいさつ団体を作りたいと思ったからです。

調べたところによると、八王子市では、小中学生・高校生の生徒会主体や、学校単位のあいさつ運動が多くあります。これには、地域の大人も関わって、地域一体となって取り組んでいるところもあります。また、自治会として運動をしているところもあります。

学校や地域の大人と行うことは、もちろん大きな意味がありますが、私はさらに大事なことは、子ども自身がもっと主体的に取り組める環境をつくることだと思います。八王子がもっと活発で明るくなるためにも、子ども主体のあいさつ団体をつくることを提案します。

次に、あいさつ団体をつくる効果として、あいさつが増えることで、八王子がもっと活発で明るいまちになる。1人だと恥ずかしくてあいさつできないという人が減る。まちでの交流が増える。という点があげられると思います。

最後に、募集する条件の概要についてです。八王子在住の小中学生・高校生で、自分からあいさつできる人を募集したいと思います。日にちについては、月に2、3回程度で行いたいと思っています。

あいさつでまちが活発になることを願っています。

3つ目の意見「若者の意見を市政に取り入れる」について発表します。

スライドをご覧ください。これは、令和5年から6年に八王子市で行われた選挙の年代別投票率です。どの選挙も10代・20代の投票率が低いことがわかります。このことから、少しでも若者の投票率を上げるための取り組みが大事だと考えました。



そのために私は若者向けのワークショップを開くことがよいと思いました。「投票するとどうなるのか」という事を考えるきっかけを作ると良いと考えたからです。少しでも選挙が大切だという事に気付いて投票に行く人が増えると思います。

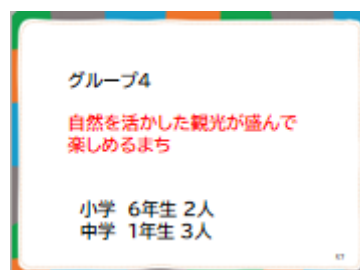
また、小中学生のうちから選挙の大切さを知る事も大切だと考えました。そこで、選挙の大切さを楽しく知れるようにするのが良いと思いました。例えば、ク

イズなどを考え、友達や親などと一緒に出れると、楽しく知ることができると思います。

このように、子どものうちから考えておくことで、大きくなって投票権をもった時に投票する人が増えると思いました。

#### グループ4

私たちは、子どもミライ提言の「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」を具現化するため、意見をまとめました。



1つ目の意見「農家の手取りを増やす」について発表します。

それを考えた理由は、中西ファームにいた時や、学校の授業の一かんで農業体験をした時に、大変な作業をしたので「このような大変な作業をしてくれている農家を支える必要がある」と思ったからです。

そのような農家を支えるために、私は、農家の手取りが増えるような行動を実践します。その行動とは主に2つあります。

1つ目は、八王子産の農作物を積極的に買って使う事です。この根拠となるのが、農林水産省が作った「地産地消には、[流通経費の節減により、生産者の手取りの増加が図られ、収益性の向上が期待できる]という効果がある。」という資料です。

2つ目は、農業体験農場や農業体験イベントに積極的に行ったり、参加したりする事です。その理由は、農業体験イベントでは、農家にとっては仕事の農業をPRできる一方、参加者にとっては面白い体験ができ、農家と参加者がおたがいにWIN—WINの関係を築く事ができます。イベントによっては、収かした農作物の一部を参加者がもらえることもあります。このように農業体験イベントは、農家にとっては、自分たちの仕事の負担が参加者のおかげで減り、人件費を削減できることによって、手取りが増えます。参加者にとっては新せんな農作物をもらえたり、手軽に農業にふれたりすることができます。

私は以上の2つの行動をじっせんして、農家の手取りを増やせるようがんばります。

2つ目の意見「イベントを通じて、高尾山などの自然を学ぶ」について発表します。

私たちは、子どもにイベントを通じて自然を学んでほしいと考えました。イベ

ントは中学生・高校生で企画をします。植物で遊んだり、押し花のしおり作りなどの体験をしながら自然と触れたり、クイズをしてもらったりして、自然について知ってもらいたいです。

私が以前に参加した自然体験イベントでは、裏山に登り、食べられる植物があるのを知ることができ、とても楽しかったです。また、川遊びやキャンプをするイベントにも参加したことがあって、体験をしながら学ぶ方が楽しいと思いました。ですが、そのイベントの参加者が少なかったのが残念に思いました。

そこで、私たちは、このようなイベントを多くの人に知って、参加してもらいたいと思い、自分たちでチラシやポスターを作ったり、配ったりすることで、イベントに興味を持ってもらえると考えました。

また、イベントの企画や運営、ガイドを私たち中学生・高校生がすることで、参加者の子どもたちと年齢が近いので、子どもの視点に立つことができ、何をしたら楽しいか、喜ぶかが大人よりわかるから良いと思いました。

3つ目の意見「SNS で八王子の自然の魅力を発信する」について発表します。

私たちのテーマは、「八王子の自然を SNS」にあげる事です。八王子は自然が多い場所なので、八王子の自然をより活かしたスポットなどをふやしたいと思っています。具体的には、八王子産のひのきを使用したブランコを、高尾山の頂上などに作りたいです。

この写真を見てください！ この写真は箱根にあるブランコです。このブランコは、箱根の絶景がひとめでたんのうする事ができるスポットです。行ったことはありませんが、SNS で見て、行ってみたいと思いました。私たちはこのようなブランコを作りたいと思っています。



ブランコを作るにあたって、私たちができることは2つあります。1つ目は、自分たちで SNS のアカウントを作り、そこで写真をあげることです。

2つ目はインフルエンサーに DM を送り、動画に出してもらうことです。

SNS に上げることで、そのとうこうを見た他の県の人や外国の人たちが、八王子に来てくれるきっかけになると思います。

たくさんの人が集まることで、たくさんの人に八王子の自然を知ってもらい、また、ちがった形でぜひスポットが作れると思います。

## 11 市長、教育長のコメントの概要

### (1) 市長のコメント

・小学生から高校生まで世代も違う中で、どのように意見が言えましたか。これから先、進学、進級し、いろいろな方々と話し合います。その中で皆さんは、自分の意見を言えると思います。



- ・今月、先の大戦から80年、長崎の平和市長会議で、海外から1,000を超えるメンバーが集まって、平和についていろんな議論をしました。意見や価値観が違っても、当然価値観も違う。その中で、どうやったら私たちは平和な日々を送れるかをイメージしながら意見を言いました。意見が違いますが、お互いの意見は尊敬し、相手の国、文化を大事にし、違うものは違うということ認識した上で、お互い平和に暮らしていけるか考えた時間でした。その中で、後から発表してくださいました自然、観光、食材の中でもう1つの意見を聴きました。そしてSNSの発信もありました。
- ・よくデジタルネイティブと言われ、今あるツールが普通に使える世代が考える発信の仕方、そして情報の受け止め方をどうするか考えてください。これからご自身がやりたいことや学校等で学んでいるものが何か考え、地域の食材を大事にし、観光など、幅広く考えを広げていただきたいと思っています。
- ・何かを決める時に360度評価と言いますが、メリットデメリットを考え、限られた時間の中で考えます。環境や社会的な意味は何か。実施し発信した時にどんな影響が出るか皆さんは考えて発表されたのだと思います。
- ・SNSなど、いろんな情報が増える中、デマがあります。いろんな情報の中から正しい情報を整理し、私たちが具体的に行動するところまで情報を絞り、行動していく。その力はもうすでに皆さんは持っていると思いますが、何が正しいのか、何が違っているのか、見極めていただきたいと思っています。
- ・「安心して遊べるために防犯対策を」という意見がありましたが、自分の周りの環境、明るさ、街灯等だけの防犯対策だけではなく、皆さんも保護者も、危ないものを感知できる力を大事にいただきたいと思っています。SNSを使う中で危ないことがないように大人の責任としても進めていっていただきたい。本当にそんな話を聞かせていただきました。地域の人との交流は、SNSの正しい情報を整理できる

ので、人と人との交流も大事にして成長していただきたいと思います。

- ・「公共のトイレの改善」の意見もありがとうございます。トイレは日本の文化だと思



います。公共トイレを綺麗に使ってもらうための作り方、あるいは綺麗に使ってもらうための日々の取り組みがあります。すでにこの東京の渋谷が取り組みました。著名なデザイナー、国立競技場を作った方々、あるいは建築の方で賞をとられた建築士やデザイナーが公共トイレを作ってきました。公共トイレは、デザイン性があれば綺麗に使おうという気持ちにさせます。綺麗に毎日清掃してくださる方がいることを見えるように気がつくと、人の行動は変わっていきます。行動変容といい「気づき穴」、ナッジ効果と言って、気づく機会を与えることで人の行動を変えます。

- ・今日伺いました皆さんの意見は、八王子市の政策として取り入れられるものを実現に向けて進めていきたいと思います。貴重なご提言いただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

## (2)教育長のコメント

- ・年々、提案のレベルが高くなっており、自分でできることを言ってくれていて、すごく素晴らしいと思えます。



- ・「子どもも大人も一緒に楽しく遊べる場所」

というのは、自分たちが作れることが出来る皆さん方の熱を感じました。とにかく今、皆さんが住んでいる場所を楽しい場所にしましょう。大変な思いをして家を買わなくともおじいさんやおばあちゃんの家を大事にしてリフォームし、家を買うための資金は体験に使うなどすると今いる場所が楽しくなるのではないのでしょうか。

- ・地域のお祭りは楽しくないから皆さんが行かないっていうのは正解ですが、楽しい場所にすればいいと思えます。学園の文化祭のように地域の人と一緒に出し物やお店出したいと提案して自分たちで楽しいお祭りにはしてください。
- ・地域の運動会に中学生、小学生と一緒に参加しようという動きが出てきました。また、自分だけで開催するのではなく、地域の人たちも来て、地域の運動会するなど、

積極的に自分たちの住んでいるまちを楽しいものにすることはできます。本当に自分たちが楽しいことや、やりたいものは皆さん方しか知らないなので、実現できると思います。それに反対する大人はいないと思います。

- ・「放課後子ども教室のこと」についても意見がありました。「中学生が小学生に教えたい」と意見がありましたが、小学校は来てもらいたいと思います。中学生や高校生が来て、勉強を教えてもらうというのは、それだけでいいと思います。放課後子ども教室だから、勉強に役立つという口実で、遊んでもらうだけで十分です。そうやって、過ごしやすい場所ってものをいっぱい作ってもらいたいと思います。ここに住む、住みたいまちにするために、今できることをやりましょう。
- ・「砂嵐を抑える植物」の意見については、とっても良いことですが、どこからお金を集めて植物を買ってきて植えるのかは、皆さん方が住んでいるまちの方に聞くと良いと思います。そのまちに適した植物があり、勝手に増えるという植物もあります。どうやったらこの植物が増えていくのか。元々その土地にある植物が自然には1番良いと思います。
- ・「安全安心」の意見がありましたけど、悪い人は見られたくなく、弱そうな人しか狙わないと思います。地域の人たちがいつも仲良く一緒にいると悪い人は近寄らないと思います。
- ・「地産地消」の意見がありました。八王子の食材を使った給食はこれからも進めていきたいと思います。皆さんも地域で、地産者は無理かもしれないけど、開発して、自分たちのいいまちづくりをやってください。
- ・皆さんが、これからやっていくのは、科学と工学を理解してもっと知的に物事を見つめて行ってほしい。八王子市に住んで、このまちにある題材で自分が生きていけるような材料ができるような職業も考えてみてください。
- ・皆さんの今後の成長に期待、そして今までの成長に本当に敬意を表したい。これからも頑張ってください。



## 12 子ども企画委員の感想と学生リーダー・アドバイザーの感想

**子ども企画委員の感想** \*アンケートから抜粋して記載しています。

### 1. 「子ども☆ミライ会議」に参加した理由を教えてください。

- ・一昨年参加したが、発表当日発熱してしまい、本番が参加出来なかったから。
- ・昨年、初めて参加しておもしろかったから。
- ・今まで二度参加して、グループで提言を話し合い決めることが楽しいと思ったから。
- ・ミライ会議が大好きだから。
- ・子どもが市政に関わることのできる、貴重な機会だから。
- ・はちビバが身近な距離にない地域で育った子どもの立場から、はちビバや出張はちビバの重要性、利用活性化について提言したいと思ったから。
- ・場所が家から近かったから。
- ・姉2人が参加して、とてもいい体験になったから。
- ・将来、先生になるために、いろいろな小中学生が、自分の住んでいる町に対してどういうことを思っているのか知りたかったから。
- ・何でも挑戦したいと思ったのと、近くの公園の遊具が少ししかなく、思いっきり体を動かして遊べなかったから。
- ・これから社会へ出る私にとって、自分より立場が上の人に意見を発表する力を身に付けておきたかったし、私の考えを多くの人に聞いてもらいたかったから。
- ・学校以外の場で自分の意見を伝えられることがおもしろそうだったから。
- ・親に勧められたから。

### 2. どのように「子ども☆ミライ会議」の子ども企画委員募集を知りましたか。 (複数回答あり)

- ・学校で配られたチラシ 12名
- ・広報はちおうじ 3名
- ・親から 1名

### 3. 「子ども☆ミライ会議」に参加した感想を自由に書いてください。

- ・子どもと大人が安心して遊べる場所が本当はない。
- ・家庭での作業量が昨年までよりも多かったので大変でしたが、良い発表ができてよかったです。
- ・地域のことをより考えるようになった。少しのことでも意見に出せるように心掛けた。
- ・5つのミライへの提言のうち、自分と同じ提言を選んだ人でグループになり、意見を出し合った。1つの話題に対して、他の人はどのようなことを考えているのか、どのような考えから提言しようとしているのかを知ることができた。例えば、私は、はちビバについての視点から意見を練ったが、同じグループには、公園や放課後子ども教室のように、異なる視点からの意見もあった。多様な視点を知ること、今後、「あなたの考えを述べなさい」と自分の意見を問われたとき、多様な視点から物事をとらえることができるようになると思った。
- ・最初の自分の提言では、「はちビバの利用者に対してアンケートを取り、はちビバの重要性を裏付ける」としていたが、同じグループの人から「質問内容はどうか」「利用者以外人の意見も必要ではないか」と指摘を受けた。「アンケート」を実施する場合は、設問や対象範囲を厳密に考えなければならないと気付いた。今後、自分が何かアンケートを作成したり、提案したりするときの参考にもなると思った。
- ・自分もミライの八王子を背負っていることを実感できた。
- ・自分たちで町を変えようと思えるのだと思った。
- ・1つのテーマに対していろいろな意見が出て、面白かった。
- ・話し合いのレベルが高いと思った。
- ・どのテーマも繋がっていると思った。
- ・普段あまり考えないようなことを考えることができ、勉強になった。
- ・他の学校の子と交流しつつ、意見交換をすることができて楽しかった。様々な視点から八王子が良い町になるために必要なことを話し合えたのは、自分の成長にもつながったと思った。
- ・みんな、どこかしら改善して欲しいところがあるということを知ることができて、先生になった時にその学校で何ができるのかが少しずつわかってきました。
- ・子どもミライ会議を通じて、八王子の観光、自然の良さを知って、より栄えた街、住みやすい街になるといいなと思います。私たちの未来は私たちでつくり、意見を出すことで八王子をよりよくしていけるのだと思いました。
- ・会議は楽しかったです。本番までの会議が少なく、もう少し時間が欲しいと思いました。

- ・自分以外にも八王子の未来を考えている人が、各自で自分の意見を発表していたため、色々な視点で未来を考えられました。
- ・改めて八王子はすごいなと考えました。具体的には、意見発表をする際、「○○のように～」のような元となる取り組みが八王子で行われていたので、様々な取り組みを行っていたのがすごいと感じました。
- ・自分が考えること、こうなればもっと良いと思っていたことを、本当に市長さんに伝えることができうれしいです。

#### 4. 子どもが、子どもの権利をもっていることを理解し、自分の意見を表現することはできましたか。

##### 「できた」という趣旨の意見 15名

- ・子どもと大人が安心して遊べる場所で何かあればいいのか、逆になくてもよいもの考えるのが難しかったけど、少し出来た。
- ・市長と教育長にしっかりと伝えることができた。
- ・子どもには意見表明権があることを理解した上で参加した。提案する理由はもちろん、実現したときの効果についても発表できた。
- ・一人一人の意見を大切にしてグループ内で話し合うことが出来ました。
- ・周りに助けてもらって自分の意見を表現できました。
- ・職員や学生リーダーの方々が話をふってくれたので、グループ内で自分の意見を発表することができました。

#### 5. 今後も「子ども☆ミライ会議」に参加したいと思いますか。その理由を教えてください。

##### ① 「参加したい」という趣旨の意見 13名

- ・さらに八王子市をより良くするために、これからもいろいろな意見を伝えていきたいです！そして、ミライ会議が大好きだからです!!
- ・子ども☆ミライ会議では、様々な立場・年齢の子どもと意見交流ができ、自分の視野を広げることができるので、ぜひ参加したい。ありがとうございました。
- ・自分の意見を市長や教育長に聞いてもらえるから。
- ・できたら。学校外での友達と交流する機会はなかなかないし、人の前で意見を発表する練習にもなるから。
- ・まあまあ参加したい。集まりが3回くらいしかなくて、気軽にできるから。自分たちの意見を言えるから。
- ・これからもみんなの意見を知りたいから。

- ・楽しかったから。八王子がもっと良くなってほしいから。
- ・八王子をより良い街にするために、グループで提言を話し合い、決めることが楽しいから。
- ・八王子には、まだまだより良くできるところがたくさんあるから。
- ・八王子市の未来のためへの意見を持った、たくさんの年齢が近い人たちの話を聞けるし、自分の正直な意見を発表できる貴重な機会だから。
- ・八王子について知ることができるから。
- ・年が上がったら、きっと今よりも広い視点で、また違う提案をすることができると思ったから。

## ② まだ分からない 1名

- ・昨年までと違い活動日数が減って、自宅での作業量が増えたので、学校の宿題や、部活との両立で疲れました。

## ③ 思わない 1名

### 学生リーダー・アドバイザーの感想

#### 1. 「子ども☆ミライ会議」に参加した理由を教えてください。

- ・学校から案内がきて、子どもたちと関わる仕事に就きたいと考えているので、興味を持ち参加しました。
- ・純粹に子どもたちが市政に対しどのような考えを持っているのか聞いてみたいと思ったので、そのサポートができればと思い参加させて頂きました。
- ・ボランティアセンターのLINEで募集を知りました。全ての日程に参加がしやすかったことと、子どもと関わってきた経験やファシリテーションについて学んできたことが活かせると思ったため応募しました。また、行政が施策や計画に市民の声を反映させる過程に関心があり、実際に関わることで理解を深めたいと思いました。
- ・自宅アパートのポストに投函された八王子市広報を読んだことをきっかけに本取り組みを知った。私は、大学で若者の街づくり参画に関するゼミを履修している。そのため自治体において実際どのように若者の参画、意見表明を行っているかということに興味がある。本取り組みは、小5から高校生までの幅広い世代の子どもたちから実際に意見を集め、子どもたちがそれを貴所の執行部に提案するという過程を経ており、若者の意見参画として大いに学ぶべきところがあると考え参加した。

## 2. 「子ども☆ミライ会議」に参加した感想を自由に書いてください。

- ・子どもの権利についてや、子どもたちとの関わり方について学ぶことができました。子どもたちと関わったことで、今の社会をどのように見ているのか知ることができました。相手の意見に耳を傾けることは簡単ではなく、自分の言葉一つで相手が意見を伝えることをやめてしまうことがあると理解できました。そのため、自分の言葉に責任を持ち、相手の意見を尊重したいなと思います。
- ・はちビバに携わる方々の考えや子どもに対しての知識を聞く中で、率直に自分が大人になったのだなと感じました。また、子どもに関わる仕事をされているプロの方々は、子どもの立場に立って物事を考えているという事を知り、とても学びになったと同時に、子どもたちの生の声を聞く中で子どもたちってこんなふうを感じているのだという気づきがいくつもあり、他者の視点に立って物事を考える大切さを学びました。人それぞれ大人も子どもも様々な方々と交流することで、意見を交換するという観点においては、スラスラと自分の思いを語るができる人もいれば、心に秘めていて1対1になったとき初めて本当の思いを聞くこともあり、コミュニケーションの大切さを知ることができました。そして本当に有意義な時間を過ごすことができたと感じています。
- ・ワークショップでは、子どもを対象にしたファシリテーションの難しさを感じました。子どもたちにとって、子ども同士の関係性が築けていない中で発言することは難しいようで、なかなか子どもたちから意見が出ない場面が多くありました。学生リーダーとして、少しでもリラックスできる雰囲気づくりや程よい介入の仕方など、工夫しながら関わりましたが、想像よりも子どもたちの緊張感は強かったです。しかし、回を重ねるごとに関係性が築かれていく様子を実感でき、本番では、中学生が緊張した表情の小学生に声をかける姿がみられました。活動全体を振り返ると、子どもたちがそれぞれの個性をグループの中での役割に落とし込み、無理せず、やりやすいペース・距離感で寄り合っていたように思います。行政の取り組みについて理解を深められただけでなく、子どもたちから学ぶことも多く、今回この活動に参加できてよかったです。
- ・まず印象に残ったのが、小学生から高校生までそれぞれが八王子市の未来についてしっかりとした意見を持っていることである。私が子どもの頃は自分の街についてたいして考えていなかったのもとても感心した。そして、貴所の職員の皆様ワークショップの際、子どもたちが意見表明しやすいような雰囲気を作られていることが印象に残った。私は人形劇サークルに参加しており、今後も子どもとかかわる機会が多くあると思うので参考にしたい。

### 3. 「子ども☆ミライ会議」に今後もかかわってみたいですか？

- ・関わってみたいです。
- ・機会があれば、是非とも関わらせて頂きたいです。
- ・来年度も継続して参加したい。

### 4. 子どもの意見を尊重し、子どもの声をまちづくりに活かしていく本市の取組についてご意見をお書きください。

- ・学んだことや感じたことを活かして、自分たちのまちをよりよくできるので今後もこの取り組みが続いていくと良いなと思います。
- ・八王子市長の、初宿さんに初めて会ったのですが、なんというか私たち学生に対しても同じ目線で話をしてくださって素晴らしい方だなと思いました。印象として、役所の方々も子どもたちもとても生き生きとしており、このような機会が続いていくと良いなと思いました。
- ・活動に参加し、子どもの意見を把握するにあたって、意見を出しやすい環境を設定することが最も重要に感じました。子どもたちが親しい関係性になれるような回を、時間をかけて確実に用意したり、話し合う場面ではグループ間の距離が近く声が届きづらかったので部屋を分けたりすると良いのではないのでしょうか。子どもたちの意見の中には「大人にやってほしいこと」の内容があったため、「自分たちにできること」という視点を何度も伝えていたことは今後も必要だと思いました。
- ・貴所は本取組みや、八王子市学生委員会などのような魅力的な取組みが多くあるにもかかわらずあまり知られていないので、大学等を通じた広報が充実すればよいと思う。

### 5. 本市では、若者の思いや考えを市政に活かしていくために、意見を聞く機会や語り合える場を創出したいと考えています。どのような機会が考えられると思いますか？

- ・大学生が年配の方々や子どもたちから地域での困りごとなどを聞き、学生が主体となって問題解決をすることで、地域とのつながりを深めながら問題解決につながると考えます。
- ・私の性格からして人と話すことが好きなので、今回のような様々な年代の方と交流するきっかけとなる活動があれば良いのかなと思います。それはミライ会議でも、お祭りでも、イベントでも何かそのようなきっかけとなるよう

な活動を媒体に、小さな交流が広がっていくと良いと思います。

- ・若者がよく過ごしている八王子市内のカフェやカラオケに、アンケートボックス(質問紙またはQRコードなど)を設ける方法を考えました。回答するとドリンク1杯無料や10%オフなどの報酬が得られるシステムにすると回答率が上がると思います。非現実的かもしれませんが、カフェの選定はスターバックスなど大手のところほど信頼感があり、若者の意欲が高まると思います。
- ・多摩市の若者会議のように、大学生から30代くらいの若者を集めて事業の実行までを行う会議体の創設を提案する。

## 6. 市の各種審議会や地域づくり推進会議などに若者として参加してみたいですか？

- ・参加してみたいです。
- ・自分が住んでいるのは八王子のお隣の町田市で、上京してきてまだ2年半なので、知らないことは多いですが、何か力になれることがありましたら参加させて頂きたいと思っています。
- ・機会があればぜひ参加したい。

## 7. はちビバでは、若者の社会参加・社会貢献活動の場の提供や地域とつながる機会を作っています。その一つに「はちビバ」における子どもと関わるボランティア活動があります。今後、「はちビバ」のボランティア活動に参加してみたいですか。

- ・参加してみたいです。
- ・就職活動が落ち着いて、この地域に今後も関わるようでしたら参加してみたいです。
- ・ぜひ参加したい。

### 13 御協力いただいた関係所管からのメッセージ

「子ども☆ミライ会議」は、市役所の様々な所管に御協力をいただいています。

第1回子ども企画委員ワークショップでは、企画委員に『第2期八王子市子ども・若者育成支援計画「ビジョン すくすく てくてく はちおうじ」』について学んでもらうため、子どものしあわせ課から講義をしていただきました。

また、教育指導課からは、毎回指導主事に参加していただき、子ども企画委員が考えていることが、学校ではどのように学ばれているかを踏まえたアドバイスをいただきました。

お世話になった両課から、御参加いただいた感想と、子ども企画委員へのメッセージを頂戴しました。

#### 子ども家庭部 子どものしあわせ課

今回、第2期八王子市子ども・若者育成支援計画「ビジョン すくすく てくてく はちおうじ」の子ども版を初めて作りましたが、皆さんが真剣に耳を傾けてくれたこと、そしてその後も「八王子をもっとこうしたい」「こうしたほうがいいのかも」と積極的に意見を交わしてくれた姿勢が、とても印象に残りました。

八王子市としても、子どもの意見を大切にし、まちづくりに生かしていきたいと考えています。

これからも、少しでも八王子市全体のことに関心をもってもらえたら嬉しいです。今回のワークショップに限らず、学生の今だからこそできる経験を大切にしながら、いろいろなことに挑戦してみてください。応援しています。

#### 学校教育部 教育指導課

全2回の子ども企画委員ワークショップ、そして「子ども☆ミライ会議」の当日まで、八王子市の魅力を高めるために皆さんが必死に考え、議論し、発表する姿を見て、とても頼もしいと感じました。

皆さんが故郷である八王子市を愛し、八王子市のために今、自分たちができることを考え、実行することで、今だけでなく未来においても、素敵な八王子市であり続けられると信じています。

今回のワークショップや「子ども☆ミライ会議」での経験を通じて、より八王子市の魅力を知ってもらおうとともに、課題意識をもち続け、これからも自分たちができることを一つ一つ積み重ねてほしいと思います。

## 14 各センターにおける子どもによる意見表明の取り組み

本市では、子どもの年齢や発達に応じた子どもの意見表明の機会を確保し、意見聴取をしています。子どもに関連する施策を実施する際には、対象となる子どもの意見の反映に努めるとともに、全庁的な仕組みづくりも検討しています。その上で、子ども・若者の声を表明できる機会として、「子ども☆ミライ会議」「高校生によるまちづくり提案発表会」また「大学コンソーシアム八王子」での取り組みを実施しています。

また、子どもの居場所であり、若者支援を行う市内のはちビバ（子ども・若者育成支援センター）では、子どもの意見を尊重した施設運営をしています。日常から遊びや生活の中で、子どもの意見形成への支援・意見聴取を行い、意見反映に努めています。

また、活動や地域の行事、多様な社会活動に、子どもが参加・参画して自由に意見を述べる事が出来るように配慮しています。

令和7年度（2025年度）の各はちビバでの子どもの権利の周知啓発と意見聴取の取り組みを紹介します。

### （1）子どもの権利啓発と周知

（ア）概要：各はちビバ（子ども・若者育成支援センター）において、子どもたちが日常の遊びの中で、子どもの権利を理解できる環境や機会を設け、保護者と子どもがともに子どもの権利について学ぶことが出来る用にしました。

（イ）期間：年間通して実施しました。

（ウ）内容：子どもの権利に関する掲示をしました。

④ 掲示物：「ユニセフ：子どもの権利を考えよう」

⑤ 取り組みや子どもの様子：

- ・ 子どもが掲示物を見て、「子どもの権利ってあるんだ」と興味を示す様子がありました。
- ・ 職員が掲示物を子どもと一緒に見ながら、子どもの権利について説明をしました。
- ・ 職員と雑談をしている際に、掲示物を見て、話の流れの中で「ここに子どもの



権利として『〇〇する権利』があるって書いてあるよ！」と話題に出ることがあり、子どもの中に静かに、しっかりと響いている様子が伺えました。

- ・ 多目的室内の比較的子どもが見やすいスペースに掲示をすることにより、子どもが「子どもの権利」について関心を持つきっかけづくりや、そのことについて知りたいときに、いつでも確認できる環境を確保しました。



- ・ 権利の内容について「こんなことあるわけないじゃん」と言う子どもがいたため、世界の中には子どもでも戦争に召集される国があることを伝えることができました。
- ・ 幼児の保護者や、小学生のお迎えの保護者が、権利の内容を読んでいる姿がみられました。
- ・ 意見を表現することの大切さや、言葉ではない表現もあることを子ども自身が初めて知ったと話していました。
- ・ 世代によって伝え方を工夫し、卒業論文を作成するための調査として訪問したに大学生に掲示物の内容を説明したり、職場体験おいて中学生に説明したり、小学生に絵を見ながら簡単に話したりしました。
- ・ 掲示物と一緒に、内容に関するクイズを掲示したところ、子どもたちが答えを考える姿が見受けられました。

## (2) 各はちビバでの意見交換の実施

- ① 概要：子どもが作成した「ミライへの提言～八王子はわたしたちがつくるまち～」について考え、意見を述べる機会を創出した。
- ② 期間：令和7年（2025年）8月1日～8月24日
- ③ 内容：「ミライへの提言～八王子はわたしたちがつくるまち～」の5つの条文から一つテーマを選び、各はちビバで子ども・若者の意見聴取をして、パネル1枚分の大ききでまとめ、8月31日「子ども☆ミライ会議」の実施会場に設置し、来場者に紹介した。

「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」



はちビバ松が谷

- ・ 「大人と一緒にどんな遊びがしたいか」との問いに、スポーツ関係の答えが多くありました。大人には練習相手や盛り上げてくれる存在として遊んでほしいということがわかりました。
- ・ 中学生は、「大人と一緒に遊ぶ」ことがイメージしにくいという意見が多く、「子ども同士で遊ぶ方が好き」という率直な意見もあり、大人に期待する「遊び」の内容や距離感が異なることが、わかりました。



はちビバ川口

- ・ 「皆に意見を聴いて、紙に書いてもらおう。貼り付ける紙はフルーツの形にしようよ。そのパネルは、木の形にして、みんなの意見を木に貼り付けていこう。」と小学生が楽しくパネルを作成しました。
- ・ 中学生の「地域の遊び場所は、屋根があって、電気が自由に使えるて、Wi-Fi が使えるといい」という意見がありました。



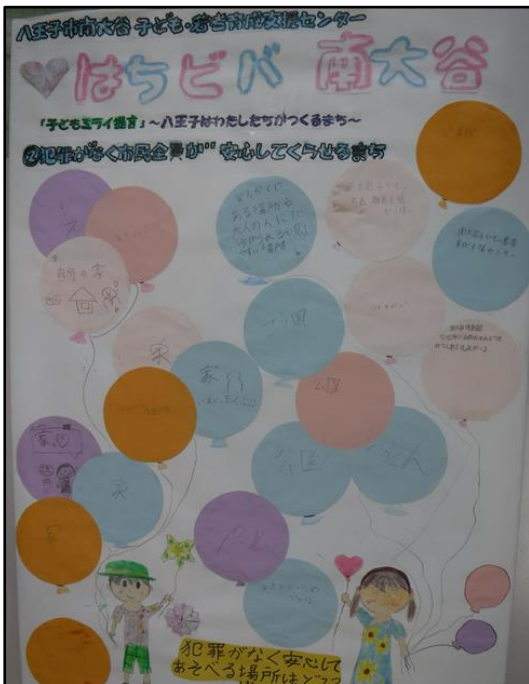
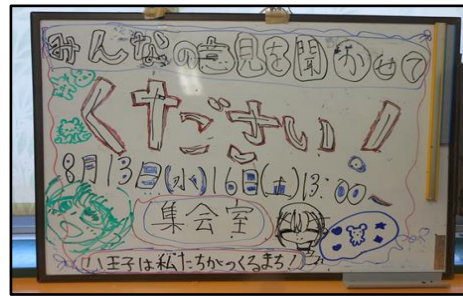
小学生が「フルーツの木」パネルを作成している様子

## 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち



はちビバ館ヶ丘

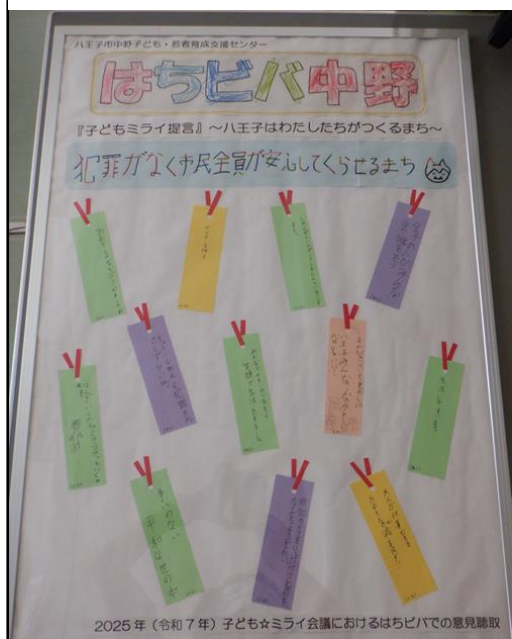
- ・ 子どもが集まりやすい図書室や廊下に「漫画のリクエスト」や「スポーツタイムでやりたい種目」を掲示して募集しました。子どもの意見を集め表明する機会を複数回作りました。
- ・ 条文の決定後、「みんなの意見をきかせてください！」というポスターを子どもたちといっしょに作成し、気軽に意見を言ったり、話ができる時間を設定したりして周知しました。



はちビバ南大谷

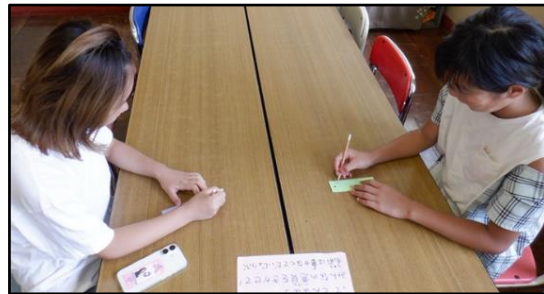
- ・ アンケートやパネルの作成に当たって、子どもたちに声をかけたところ、小学生から高校生まで、進んで掲示物の作成をしてくれました。
- ・ 「犯罪がなく安心して遊べる場所はどこ？」というテーマについて、年齢に関わらず、「家が一番」と答える子どもが多くいました。
- ・ パネルは、それぞれも意見を風船にして、男の子と女の子が嬉しそうに持っているイメージにしました。

## 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち



はちビバ中野

- ・ 子どもたちの多数決で決めましたが、意見を書く時には想像ができずに困っている子どもが多い印象でした。
- ・ 小学低学年の中では犯罪がなくなる＝刑罰を処されるということだと認識しているがいました。
- ・ 中高生にとっては置かれている環境によって、「どうしたら安全になるか」想像ができない子どもがいました。



はちビバ浅川

- ・ パネルを入口に掲示することにより、多くの方に「子どもミライ提言」について関心をもってもらうことができました。
- ・ 子どもからは、「犯罪をしないように声かけしあおう。」といった意見や「選挙権がある人は選挙に行く。」「景気をよくする」など、様々な角度からの意見を表明してもらうことができ、その意見は、すべてパネルに掲示することで、多くの来館者に見てもらうことができました。

## 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち



はちビバ由木

- ・ 6年生の子どもと相談して、テーマを選ぶときは「これからの八王子にとって、どれが一番大切だと思うか」という問いかけをすることに決定しました。
- ・ 小学低学年は、テーマに対して「下校時の注意事項」をあげている子どもが多く、学校や家庭で話されたことを日常的に意識している様子が伺えました。
- ・ 小学高学年以上になると、「犯罪をなくすなんて無理」「犯罪はなくなる」とテーマに対して消極的な様子でした。その中でも「罰を重くする」「社会の制度から変えないといけない」といった意見が印象的でした。



はちビバ元八王子

- ・ 「犯罪がなく・・・」のテーマでポスターに絵を描いてほしいんだけど・・・ お願いすると快く描いてくれました。
- ・ 描いてくれた絵の他に、たくさんの子にそのテーマへのメッセージを自由に書いてもらいました。
- ・ こちらの問い掛けに、「監視カメラを付ける」「ドローンでパトロールする」などの意見がありました。

## 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち



はちビバ北野

- ・ 「子どもミライ提言」から1つ選ぶ際に、「どれが一番大事?」「自分たちでも出来るのはどれ?」など、自分事として考えながら、選ぶ姿が見られました。
- ・ 「笑顔」をイメージできるように華やかにしたい。自分たちだけじゃなくて、小さい子や大人にも参加してほしいからと、“手形”をとってもらい、作成しました。



はちビバ中郷

- ・ 「自分ができること、してみたいことは何だろう。自由に考えや意見を書いてもらおう」と子どもたちが書けるサイズの用紙に丸いおりがみに自由に意見を書いてもらいました。
- ・ 制作中に書き上げられた意見に目を通しながら、子ども同士で「本当に最近、不審者とかいて怖いよね」「キックしてやっつける」「でも反撃も怖いよね」などのおしゃべりをしながら制作していた。



### (3) 子ども・若者の意見機会の創出（子ども☆ミライ会議の地域版）

①概要：子ども・若者の意見表明の裾野を広げて、仕組みの構築をしていくため、若者、地域の協力を得ながら、地域における意見表明の機会となる企画を圏域内で、実施しました。今後は、「子ども☆ミライ会議の地域版」をはちビバ（子ども・若者育成支援センター）のない地域で積極的に実施していくことを目指します。

②日程：令和7年10月26日（日）恩方市民センター  
令和7年11月2日（日）宇津貫公園  
令和8年3月1日（日）小宮公園  
令和8年3月15日（日）横山南市民センター  
令和8年3月14日（土）NAGAFUSA ミライ☆ミーティング

③内容：はちビバ（子ども・若者育成支援センター）のない地域で開催する模擬社会体験事業「こどもシティ」のイベント会場で子どもと若者・地域の方がかわり、テーマ「どんな遊び場、居場所があったらいいか」について、子どもの声や若者の声を地域の方が聴く機会、意見交換をする機会としました。

④参加対象：子どもは、幼児から高校生世代に大学生、若者、地域の方が意見聴取をしました。

⑤方法：多種のツール活用（アンケート、カードに記入、ボードにシール貼り付けなど）をして、年齢や発達に合わせた声を聞きました。



⑥取り組みの様子：

【令和7年10月26日（日）恩方市民センター】

- ・ 木のボードに付箋の葉や実がなっていくのを見た子どもが、やってみたいと集まってくれました。楽しみながら自由な意見を出すことができました。
- ・ 担当をした若者は「多くの子どもが、夏に家族で旅行に行った場所を書いてくれ、幼児には、絵でもいいですよと声をかけて、子どもが描いた絵を保護者が私たちに解説をしてくれました」と感想を述べていました。

- ・ こどもシティを見学していた法人会の方から、「私たちも声の聞き取りをやりたいのでやり方を教えてほしい」と説明を求められました。また、「完成していく意見の木を見て子どもの自由な発想が知ることが出来て面白いのでいろんな場所子どもの声を聴こう。」と感想がありました。



- ・ 主な子どもの意見

プール(6人)、うみ(6人)、すいぞくかん(3人)、虫や(3人)、さかなつり(3人)、押し活ができるところ(3人)、サマーランド(3人)、どうぶつえん(2人)、ゆうえんち(2人)、ユニバ(2人)、カードショップ(2人)、こどもシティ、ゲームができるところ、そりあそび、どうぶつカフェ、猫カフェ、アスレチック、お金をつかわないゲームセンター、ゲームができるところ、家、友達の家、ご飯食べるところ、レストラン、ボールプール、ジャングルジム、森、そらをとぶところ、パークール場、キックスケーター場、卓球場、イラストをたくさん描けるところ、公園、3人乗りのブランコ、おぼけやしき、長い滑り台、エレクトーンプレイ場所

【令和7年11月2日(日)宇津貫公園】

- ・ 「どんな遊び場、居場所があったらいいか」のほかに「ホットできる場所」についてアンケートをとり、シール貼りをしてもらいました。
- ・ 担当した大学生は、年齢的に来場者と近く、子どもとフレンドリーに会話できていました。



- ・ 主な子どもの意見

「ホットできる場所」・・・自分の家、寝られる場所、図書館  
「あったらいいなと思う施設」・・・プール、遊園地、水族館  
自由記述では自習室、防音室、子どもだけで借りられるスペース、公園ではない室内の遊び場、児童館といった回答があり、はちビバのような居場所へのニーズの高さがかがえました。



## 15 子どもの意見を尊重し、反映に向けた取り組み

令和5年（2023年）に施行されたこども基本法により、国及び地方公共団体は、子ども施策の策定・実施・評価にあたって、子どもや保護者等の子育て当事者の意見を反映するための必要な措置を講じることが義務付けられています。

本市では、令和7年（2025年）3月に「第2期八王子市子ども・若者育成支援計画」を策定し、子ども・若者の意見を尊重したまちづくりを推進していますが、今後、子育てや教育分野に限らず、全庁的に取り組んでいく必要があります。

これを踏まえ、子どもの意見を聴くことの必要性及び重要性、並びに日常業務に活かすための具体的な手法について理解を深め、子どもの権利を尊重したまちづくりを推進することを目的として、子ども家庭部のみならず、全庁の各課や職員を対象に、子ども家庭部子どものしあわせ課が、下記のとおり研修会を実施しました。

- (1) 課長職を対象とした子どもの意見にかかる研修会の開催
  - 1 対象 課長補佐職以下の全職員（再任用・任期付を含む）
  - 2 日時 令和7年（2025年）11月7日（金）午前10時～11時
  - 3 内容 子どもの権利について、子どもの意見反映の意義と背景、意見反映のプロセスと進め方 など
  - 4 講師 こども家庭庁長官官房 総合政策担当こども意見係 主査 今津 研
  
- (2) eラーニング研修「子ども・若者の意見を尊重したまちづくりに向けて」
  - 1 対象 課長補佐職以下の全職員（再任用・任期付を含む）
  - 2 期間 令和8年（2026年）1月14日（水）～2月10日（火）
  - 3 内容 子ども・若者の意見を聴くことの重要性を理解し、施策に反映するための基礎知識

<p>こども家庭庁 こども家庭庁</p> <p>本日の研修について</p> <p><b>研修の目的</b></p> <p>子ども・若者の意見反映の意義や方法について、理解を深める</p> <p><b>本日の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. なぜ、子ども・若者の意見を聴くのか</li><li>2. 子ども・若者の意見を聴き、その意見を政策に反映するとは…?</li><li>3. 多様な声を聴くために</li><li>4. 国が子ども・若者の声を聴くための取組について</li><li>5. 地方自治体が子ども・若者の声を聴く際の国のサポート</li></ol>	<p><b>研修の目的</b></p> <p>子ども・若者の意見を施策に反映することが法律で義務化されたため、その重要性を理解する。</p> <p><b>目次</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. なぜ、子ども・若者の意見を聴くのか</li><li>2. 子ども・若者の意見を聴き、その意見を施策に反映するとは…?</li><li>3. 八王子市の取組事例</li><li>4. まとめ</li></ol>
--	---